

G3m上の不動化TPCKトリプシン

Cat. No. NATE-1772

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明

トリプシンは、基本アミノ酸L-アルギニンまたはL-リジンのカルボキシル基で特にタンパク質、ペプチド、アミド、エステルを加水分解します。G3m: CRカラムあたり25 µgのトリプシン、デキストランに固定化。CRカラムあたり260 ST単位が固定化されています。このCRカラムは、アプリケーションごとに少なくとも50 µgのチューブリンを切断します。Nr. 15 保存バッファー: pH 8.0の50 mM Tris/HCl Nr. 67 反洗バッファー: pH 8.0の50 mMリン酸 (ソーレンセン) Nr. 68 洗淨バッファー: pH 8.0の50 mMリン酸、1 M NaCl

別名

α-トリプシン; β-トリプシン; コクーンアーゼ; パレンザイム; パレンザイモール; トリプター; トリビュア; 疑似トリプシン; トリプターゼ; トリップセリム; 精子受容体ヒドロラーゼ; アルファ-トリプシン; ベータ-トリプシン; EC 3. 4. 21. 4; トリプシン

製品情報

由来

牛膵臓

EC番号

EC 3. 4. 21. 4

プロトコル

1. 配送されたバッファーを（各2 ml以上）二重蒸留水で希釈します。1回のアプリケーションに必要な量は： 1 mlの10x反洗バッファーと9 mlの二重蒸留水 2 mlの5x洗淨バッファーと8 mlの二重蒸留水 1 mlの10x保存バッファーと9 mlの二重蒸留水 基質は反洗バッファーに入れておく必要があります。2. CRカラムを10 mlの反洗バッファーで平衡化します。シリッジに10 mlの反洗バッファーをロードし、重力で反洗バッファーをカラムの上部フィルターまで流します。バッファーの流れが非常に遅い場合は、シリッジで力をかけてください。3. 反洗バッファーに基質溶液をロードします。小さな体積 (< 70 µl) : CRカラムをベンチトップ遠心分離機で5秒間スピンします (2000 rpmで十分です)。基質溶液がマトリックス材料に入るのを待ちます。大きな体積: 基質溶液をカラムを通して流します。流量: 最大70 µl/分 基質をカラム内に約1分間室温で保持します。基質を再度カラムに適用するか、長時間インキュベートすることで、より高い回転率が得られます。4. 製品溶液を溶出します。小さな体積 (< 70 µl) : カラムから製品を遠心分離します。大きな体積: 基質をカラムを通して流し、残留溶液をマトリックスからスピンします。注意: 700ダルトン未満の分子は7 mlの反洗バッファーで溶出する必要があります。カラムが乾燥しても害はありません。5. カラムを10 mlの洗淨バッファーで洗淨します。6. カラムを10 mlの保存バッファーで平衡化します。カラムを4°Cで保管します。CRカラムを凍結しないでください!

保管・発送情報

保存方法

4 °C